



REPORT

有人型の拠点で 小型家電を回収

●平林金属(株)

DATA 所在地 岡山県岡山市
資本金 4億1280万円(グループ合計)

金属スクラップを扱う平林金属(株)は、有人施設型資源回収システム「えこ便」をスタートさせた。会員登録をした個人が使用済み小型家電・金属・古紙などを持ち込み、回収量に応じてポイントを受け取る仕組み。常駐スタッフによるリサイクル情報の発信なども行っており、小型家電リサイクルの新たな回収拠点として、回収量の増加に取り組んでいる。

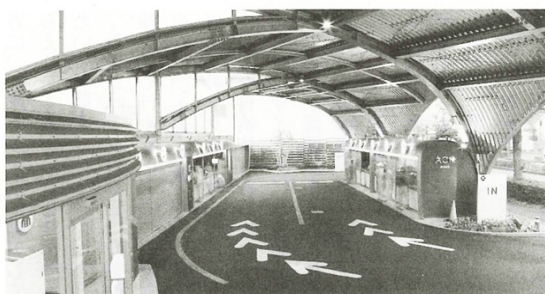
「えこ便」の取組みは2015年7月に開始。岡山市中心部の人口密集地に西古松局を開局し、本格的な受け付けをスタートした。無料で会員登録を行うと、対象品をいつでも持ち込むことができるようになる。回収対象は金属類、アルミ缶、スチール缶、小型家電、新聞・チラシ、雑誌、段ボール、古着の8品目。持ち込んだ品目は自動計量器付き回収容器「eポスト」に投入、資源の種類と重量に応じてポイントが付与され、そのポイント数に応じて商品を獲得できる。

取組みの特徴は、清潔感のあるデザインを採用とサポートスタッフの常駐だ。スタッフは持ち込み作業をサポートするとともに、利

用者とのコミュニケーションを重ね、適正なりサイクルに関する情報を発信。また夏休みなどには小学生対象のリサイクル教室を開催するなど、環境教育の拠点としての役割も担う。2016年4月には鳥取県米子市に安倍局、12月には岡山市南区に並木町局を開設した。

適正な処理ルートの 活用促進へ

同社は小型家電リサイクル認定事業者として、中国地域を中心とする6都道府県で17自治体と契約している。処理を担う港工場はこれまで解体スクラップをはじめ、産業機械、製造端材、自動販売機などの多種多様な排出物を受け入れており、複合素材品目にも対応できる技術力を持つ。小型家電の処理フローでは固気流動層式選別装置による高精度選別などを駆使し、使用済み小型家電から資源物を約40種に分けて濃縮、高品位化しているという。回収量は年間で約1300t(2016年度見込み)。そのうち、えこ便による回収は300tほどで、新たな拠点



「えこ便」の小型家電回収拠点

の設置により、今後いっそう回収量を増やしていきたい考えだ。担当者は「違法な不用品回収業者は注意喚起だけでは撲滅できない。えこ便の取組みは、魅力的な受け皿づくりと働きかけで、こうした不用品回収から資源物を適切に活用・処理できる流れへ取り戻す試みでもある。正規ルートへの流れをつくり、適正なりサイクルを推進していきたい」と語っている。
W (本誌・八木)